

S-4

「しまくとぅば講師養成講座」と「しまくとぅば検定」

西岡 敏（沖縄国際大学）

1. 琉球語諸方言の衰退と日本語モノリンガル化

官話大和口 沖縄物語 一人話し話し ぴりんぱらん (kwaNwa 'jamatuguci ꜱucina munugatai cui hanasibanasi piriNparaN) (仲浜政模 [宇有章] 1845 生~1916 没)
トゥバラーマもデンサー節も言葉の意味さえわからない (BEGIN「島人ぬ宝」2002 年)

1972 年の「日本復帰」後、琉球語諸方言の衰退、日本語モノリンガル化が更に進行する。いわゆる「日本化（本土化）」による文化的喪失に危機感を抱いた沖縄県は、2006 年に「しまくとぅばの日に関する条例」を制定する。2009 年、ユネスコより琉球列島の 6 言語が「危機言語」の指定を受ける。2013 年、沖縄県は「しまくとぅば普及推進計画」を発表し、2023 年までの 10 年計画で戦略的に普及運動を実施するとした。2015 年、小学 5 年生向け・中学 2 年生向けに、しまくとぅば教材『しまくとぅば読本』を発行し、沖縄県内の小中学校に無償で配布する。2017 年 9 月、沖縄県は文化振興課内に沖縄県しまくとぅば普及センターを設立する。設立時から取り組まれた事業が「しまくとぅば講師養成講座」と「しまくとぅば検定」という二つの柱であった。

2. しまくとぅば講師養成講座（2018 年～現在、受講料無料）

COPY「あなたも「しまくとぅば」の先生になってみませんか？」先生（シンシー）
—沖縄中南部開催 初級（18 年度後期）・中級（19 年度前期）・上級（20 年度前期）

初級：しまくとぅば概論・基礎知識 講師 9 名（うち言語学者 4 名が 26 コマ）

中級：各地域のしまくとぅばの特徴と実践 講師 13 名（言語学者＋言語話者＝10 名）

上級：しまくとぅば教育法 講師 13 名（言語学者＋現役の国語/英語/音楽教育関係者）

全 32 コマ（大学講義の 4 単位分で、土曜・日曜の午前に開講、認定試験あり）。言語学者以外に、琉球文化に深く関わる専門家も講師を務めた（歴史・民俗ほか）。

初級では、受講生 40 名募集のところ、128 名が応募し、94 名が受講、57 名が合格。中級では、各地域（5 言語）の言語話者と言語学者がペアになって、講座を行った。上級では、教職の大学教員、小中高の教員も講師に加わった。受講生 36 名が修了認定。

—沖縄北部開催 初級（19 年後期）・中級（21 年度前期）・上級（22 年度後期）

—八重山開催 初級（21 年度後期）・中級（22 年度前期）

3. しまくとぅば検定（2018 年～現在、検定料無料）

実施の状況は以下のとおりである。

—2018 年度 9 級プレ検定（中南部言葉）から開始する（実施日：2019 年 2 月 16 日）

—2019 年度 9 級・8 級・7 級検定（中南部言葉）（実施日：2019 年 12 月 15 日）

—2020 年度 9 級・8 級・7 級・6 級検定（中南部言葉）（実施日：2020 年 12 月 20 日）

—2021 年度 9 級・8 級・7 級・6 級・5 級検定（中南部言葉）（実施日：2020 年 12 月 18 日【9 級・8 級・7 級】、19 日【6 級・5 級】）

2021 年度の 9 級は「とぅぐちくとぅば検定」（11/28）、「しゅまむに検定」（12/4）、「どぅなんむぬい検定」（12/5）の 3 つも実施された。また各級のレベルについて、9 級は小学 1～2 年生、8 級は小学 3～4 年生、7 級は小学 5～6 年生、6 級は中学 1～2 年生、5 級は中学 2～3 年生のように設定されており、小学校単位での受検も可能となっている。9～6 級までは「聞く」問題と「読む」問題、5 級で「書く」問題が加わる。問題は『しまくとぅば読本』などの既成の出版物も活用して作成しており、各級の「単語帳」を検定受検者に無料で配布し、試験当日にも持ち込み可である。言語の 4 技能「聞く」「読む」「書く」「話す」のうち、「話す」をどう測るかが課題である。